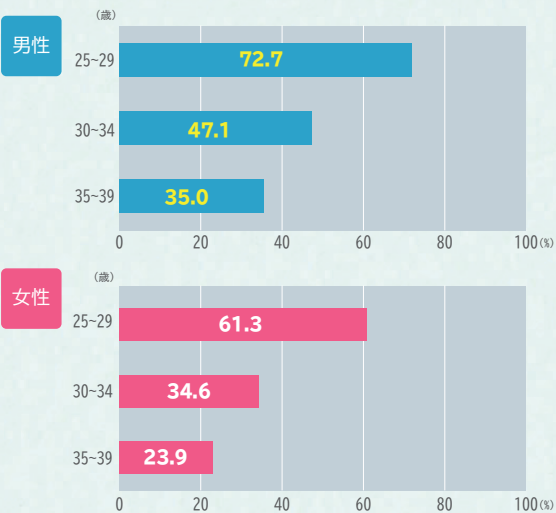


進む未婚化・晩婚化

未婚率

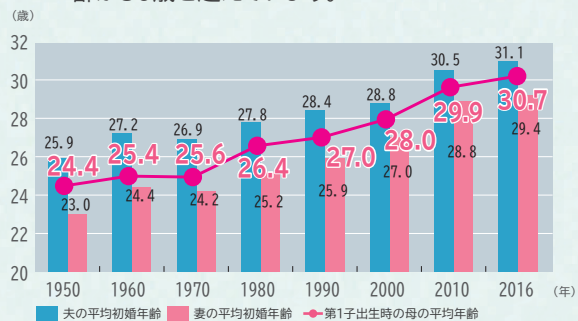
「国勢調査」によると、25～39歳の未婚率は男女ともに上昇傾向にあります。



(出典) 総務省「平成27年国勢調査」

平均初婚年齢・母親の平均出生年齢推移

さらに平均出産年齢も、2016年の場合第1子が30.7歳、第2子が32.6歳、第3子が33.6歳となり、2011年から第1子出産年齢が30歳を超えています。



(出典) 厚生労働省「平成28年人口動態統計」

「子どもがほしい」という場合は…

岡山県不妊専門相談センター 「不妊・不育とこころの相談室」

〒700-8558
岡山市北区鹿田町2-5-1 岡山大学病院内
☒ funin@cc.okayama-u.ac.jp
TEL・FAX 086-235-6542
<http://www.cc.okayama-u.ac.jp/~funin/>

「妊娠?どうしよう」という場合は…

おかやま妊娠・出産サポートセンター 「妊娠・安心相談室」

〒700-8558
岡山市北区鹿田町2-5-1 岡山大学病院内
☒ ninshin@okayama-u.ac.jp
☒ anshin@okayama-u.ac.jp
TEL・FAX 086-235-7899
<http://www.okayama-u.ac.jp/user/ninshin/>

妊娠・子育て・不妊症・性・ジェンダーに関する「本を読みたい」「情報を得たい」という場合は…

岡山大学医学部保健学科 リプロカフェ 保健学科棟2階 (お越しになる場合は予めご連絡ください)

〒700-8558
岡山市北区鹿田町2-5-1
☒ josan@cc.okayama-u.ac.jp
TEL・FAX 086-235-6538
<http://www.okayama-u.ac.jp/user/josan/>

岡山県不妊専門相談センター「不妊・不育とこころの相談室」
おかやま妊娠・出産サポートセンター「妊娠・安心相談室」
「岡山県妊孕性等普及啓発標準プログラム」等作成事業
岡山県保健福祉部健康推進課
岡山大学大学院保健学研究科
— 監修 —
岡山大学大学院保健学研究科
岡大学生殖医療技術 (ART) 教育研究センター
中塚幹也

You Tube で動画配信中
「リプロトーク」で検索

2023年3月改訂

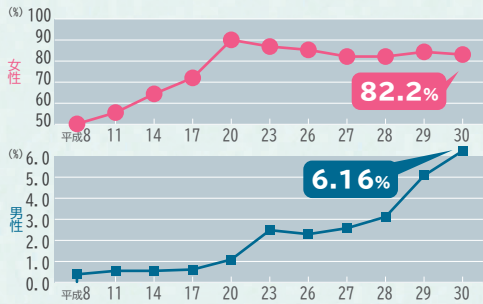
知ってみたいシリーズ 3

妊娠・出産 子育て事情



岡山県不妊専門相談センター「不妊・不育とこころの相談室」
おかやま妊娠・出産サポートセンター「妊娠・安心相談室」
「岡山県妊孕性等普及啓発標準プログラム」等作成事業
岡山県保健福祉部健康推進課
岡山大学大学院保健学研究科

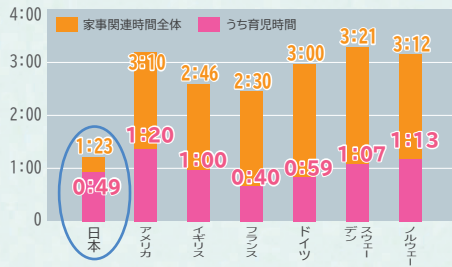
育児休業取得率の推移



女性の育児休業取得率は、職場を休みにくくなったこと、保育所が増えたことを理由に、平成30年度は前年度に比べ1.0ポイント低下し、82.2%となりました。一方男性は前年より1.02ポイント上昇し、6.16%ではありますが、低率が続いています。

(出典) 総務省「国勢調査」

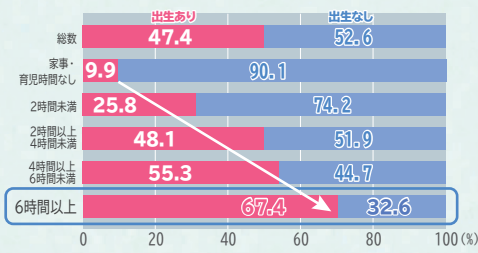
夫の1日あたりの家事・育児時間



男性の育児時間を国際比較してみると、日本では欧米諸国と比較して60%程度、家事の時間を加えても1日平均1時間半程度と短く、男性の家事・育児の参加が進んでいないことがわかります。

(出典) 総務省「社会生活基本調査(平成28年)」

夫の家事・育児時間(休日)別の第2子以降の出生率



夫の休日の家事・育児時間と第2子の出生状況について調査したところ、夫の家事・育児時間が長いほど2番目以降の子どもの持つ率が高いことがわかります。

(出典) 厚生労働省「第9回21世紀成年者縦断調査」(2011)

知っておいて!

体外受精などの不妊治療 42歳で保険適応ストップ

2022年からスタート 回数制限6回

年齢が高いほど治療の効果が出にくく、流産や合併症などのリスクが高くなることもあり、早めに妊娠について考えてみませんか?



今のうちに子どもについて考えよう

最新の不妊治療について

～卵子提供と卵子凍結～

晩婚化が進むにつれて、高齢で子どもを持ちたいと思う女性が増えてきました。35歳ごろから子どもをつくりにくくなるので不妊治療を受ける人も年々増えてきています。海外では行われている最新の不妊治療について少しだけ紹介します。

卵子提供

病気やその治療で自分の卵子が使えなくなった場合、第三者から卵子を提供してもらうこと。倫理的課題もあり、日本では手がける医療機関も少ない状況です。(2020年3月現在)

卵子凍結

自身の卵子を凍結して保存しておくこと。がんなどの治療の前に行うことが多いが、近年健康な女性が自分の卵子を若いうちに採取・保存し、将来の妊娠に備える例も増えてきています。(36歳以上は推奨しない) 2018年、日本生殖医学会

理想の子ども数を持たない理由 出産に対する意識調査

(出典) 国立社会保障・人口問題研究所「第15回出生動向基本調査(夫婦調査)」2015年



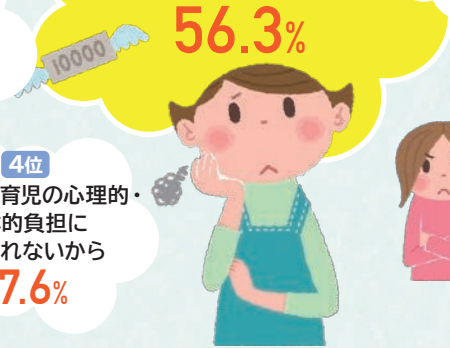
2位
高齢で生むのはいやだから
39.8%

3位
欲しいけれどもできないから
23.5%



4位
これ以上、育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから
17.6%

1位
子育てや教育にお金がかかりすぎるから
56.3%



5位
健康上の理由から
16.4%



8位
夫の家事・育児への協力が得られないから
10.0%

6位
自分の仕事(勤めや家業)に差し支えるから
15.2%



7位
家が狭いから
11.3%

9位
夫が望まないから
8.1%

わたしの育児ライフ

みんなが出産する時には...

20代半ば
仕事を任される事が増え、毎日が楽しい。だけど...

子どもも欲しいけれど仕事も続けたい

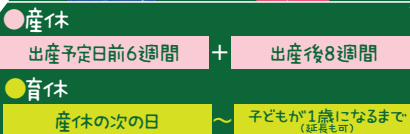
どうしよう

夫に相談。すると...

僕まかせて育休取るよ!



取っ払って産休だけじゃねえ!?



出産後、わたしはすぐに仕事復帰。夫の家事と育児、初めは心配だったけど楽しくやっているみたい



たまにおじいちゃんたちもあずかってもらって育児を一人で抱え込まないでこなそう!



みんなで協力すればゆとりのある育児ライフが送ることができるんだね



ちなみに!

パパワークシェア制度

北欧圏では「パパワークシェア制度」といって、父親も育児休業をとることを推奨する制度があるよ。この制度のおかげで出生率があがっているとか! 日本でも、父親が育児休業を取りやすいように「パパママ育児プラス」が施行されたんだ。今後ますます広がっていくことが期待されているよ!